



父母連は、世田谷区内の学童クラブの父母会を主体とした情報交換と相互交流のための自主的な団体です。子どもたちの放課後の生活を充実させ、学童クラブをよりよいものにしていくために活動しています。

第43回東京の学童保育研究集会が、6月29日(日)、都立国際高等学校(目黒区)で開催されました

世田谷区の父母や指導員ら約20名を含め、全体で493名が参加

プログラム

午前9:30~12:00が体育館での全体会、午後13:00~16:00は14の教室に分かれての分科会でした。参加者はどの時間帯からでも参加できました。また同時に約100名の子ども達の保育が行われ、剣道場と柔道場でのボール遊びや、教室での工作などを楽しんでいました。生憎の雨のため、会場隣の駒場野公園で予定したカレー作りは、屋内の調理室で行い、皆で一緒にお昼を楽しみました。

全体会

アトラクション

目黒区の子ども36人と大人11人が体育館の舞台上、歌「ぼくら元気な地球っこ」とけん玉、ダンス「アブラハム」を披露してくれました。アブラハムは会場の参加者全員でも踊り、盛り上がっていました。

基調報告

都連協の土田会長が、学童保育を取り巻く国の政策やその状況に加え、23区の状況として全児童対策との一体化、大規模化、保育料の見直しなどを紹介した後、指導員の役割と課題、父母会の大切さを報告されました。

板橋区からの特別報告

別途、裏面記事をご覧ください。

記念講演

「子どもの心を育てるほめ方・叱り方～自分が好きといえる子に～」と題して、梅ヶ丘病院や精神保健福祉センターに勤務された、日本アド

ラー心理学療法士の星一郎先生が講演されました。自分に自信がないと、「見かけだけの」いい子を演じて思春期で挫折してしまう。そこで「自己肯定力」と、問題に出会った時にそれを乗り越える「レジリエンス(回復力)」を子どもの中に育てていくことが大切です。やる気をなくす3つの言葉(1.早くしなさい。2.ダメです。3.頑張りなさい)を使わず、上手にほめるには、行動を褒めること。子どもに自信を持たせる勇気つけとして、お父さん・お母さんはこう思うよ(I message)で言葉かけする。断定的な言い方(You message)でないので子どもが自分で考え、自分で判断することで子どもの「肯定感」を伸ばすことにつながる。講演後のQ&Aも活発で、「お手伝いもI messageで頼み、お手伝いで家族に貢献していることをお礼で伝え、自己肯定感を育てていくことができる」など、とても参考になりました。

分科会

世田谷父母連では第8分科会(「全児童対策事業」と学童保育)の運営を担当しました(世話人:千葉会長、司会:高取、会場:糟谷、記録:巾崎)。参加者28名と、全児童対策事業の導入に伴い、学童保育機能が縮小される事例などを各区から紹介しあい、保護者が願う学童保育、どのような居場所が子どもにとって必要なのか、学童での生活を支える指導員

について話しあいました。

最後に世話人が行った纏めで、学童クラブは「子どもたちが、行きたくない日でも毎日行かなくてはならない場所です。また学童保育の指導員が、その日、その日の子どもたちの様子を見て、一人ひとりに対応してくれる場所です。放課後の生活の中身はどうか、全児童対策事業と異なる点を、これからも考えて、求めていきましょう。また子ども子育て支援法への行政のこれからの取り組みについて、保護者も指導員も一緒に考えていきましょう」という言葉に励まされて、一日を終えました。

皆様、お疲れ様でした。(文責:巾崎宜晃)



第43回東京の学童保育研究集会

各区報告——今、板橋区では

全児童対策事業のゆくえ



2013年度、板橋区の学童クラブは激震に見舞われました。昨年8月、板橋区教育委員会事務局学校地域連携担当課は突如「現行の児童福祉法に基づく学童クラブ事業は廃止する」と区議会文教児童委員会で発言し、それを境に一気に学童クラブ廃止・児童福祉法を根拠としない新たな条例の制定、その条例に基づく「新あいキッズ」事業の創設に舵を切りました。「新あいキッズ」は云わば全児童対策事業に学童クラブを取り込み「一本化」させてしまう制度です。

23区では全児童対策と学童クラブの「一体的運営」を検討する自治体が増えつつありますが、板橋区は、これまで事例の少ない一体化に踏み込みました。新あいキッズには従来の登録区分はなく、就労の有無に関わりなく希望する全ての児童が17:00まで小学校内の3つの場所（校庭、動的プログラムを実施する室内、読

書など静的プログラム用の室内）で過ごすという制度です。17:00以降就労要件を満たし利用を希望する保護者は有償（18:00まで2700円、19:00まで3900円ともにおやつ代を含む）で延長利用することができる、というものです。定員はありません。17:00までの利用は無償のためおやつはありません。

無償だからと言っておやつなしで17:00まで過ごすことは小学校低学年の留守家庭児童には非常に過酷なことだと思います。非就労家庭の子はいつ家に帰ってもいいし、家でおやつを食べて学校に戻ることもできます。更に職員体制は、児童数106名～140名の標準規模の場合、常勤2名・非常勤2名・プレイングパートナー（アルバイトレベル、資格不問）3名の計7名で有資格者は常勤・非常勤の4名という脆弱な体制です。その他にも多くの問題を抱えな

がら2014年4月、11の小学校で「新あいキッズ」がスタートしました。これにより8つの公設公営学童クラブが今回民間委託され、かつあいキッズを経ずいきなり「新あいキッズ」へ移行するという、学童クラブ児にとって極めて乱暴な制度変更が強行されました。2015年度に残り10の公設公営学童クラブが「新あいキッズ」への移行を予定し、既にあいキッズに移行している33クラブ（全て民間委託済み）も2015年度中に「新あいキッズ」すなわち学童クラブ登録を廃止した板橋区版全児童対策へ移行するのです。この移行に伴い、板橋区の主管部門はかつての子ども政策課から教育委員会事務局学校地域連携担当課へ移管され、組織的にも「保育」とは縁が切れることとなります。

（東京の学童保育研究集会・討議資料より、編集者の責任で割愛して転載）

第2回運営委員会が開かれました

7月12日（土）午後7時より太子堂区民センターにて、各ブロック代表及び父母連事務局役員が出席し、第2回運営委員会が開催されました。

千葉会長より、新BOP運営委員会（年2回開催の1回目）の出席、6月29日に開催されました第43回東京の学童保育研究集会無事終了、7月6日子ども子育て支援新制度せたがやフォーラムへの出席、7月10日の子ども子育て新制度およびBOPに関する検討会出席（8月までに計3回のうちの1回目）の報告がありました。都

研集会、中でも板橋区の現状につきましては、詳しい報告を掲載しておりますので、是非ご一読ください。

また、子ども子育て支援新制度に関わる条例化への進捗状況については、今後も情報収集等行っていく、状況をお伝えしてまいります。

区との懇談会の開催申し入れをすることについては、第1回の運営委員会でも議題にあがりましたが、例年9月には、予算要望懇談会を開催してきておりますので、父母連はじめ各父母会、各ブロックでも、要望書を作成いただける

よう伝えました。

年間10号程度発行しています父母連ニュースは、今後も、より身近な話題を掲載していければと広く原稿を募集いたします。掲載のご希望は、父母連（連絡先下段）までご連絡ください。

その他、合同運動会、入室説明会などの開催に向けた準備段階の報告調整をいたしました。

次回の運営委員会は、9月13日（土）を予定しております。ご意見やご質問などありましたら、ブロック担当あるいは父母連（連絡先下段）までご連絡ください。（副会長 徳野 久美）

輝け
父母・子どもたち

父母連ニュース No. 4

2014年8月25日発行

編集・発行：世田谷区学童保育クラブ父母会連絡会

URL: <http://www.geocities.co.jp/SweetHome-Skyblue/3450/>

E-mail: setagaya-fuboren@gakudo.club.ne.jp

お問い合わせは、父母連事務局まで

事務局長 柳 武仁 〒156-0054 世田谷区桜丘1-18-8

TEL/FAX 03-3420-8083（夜間）携帯 090-8318-8083（緊急・昼間）

父母連会費と「日本の学童はいく誌」について

- 父母連会費は、1年間 400円×世帯数（4月1日現在）です。
- 「日本の学童はいく誌」誌代は、4,080円（1冊年間購読）です。

■郵便振替口座 00110-6-650871

■加入者名 世田谷区学童保育クラブ父母会連絡会

※「通信欄」に「父母会名」「明細」をご記入ください。

《銀行から振込の場合》

■銀行名：ゆうちょ銀行 ■金融機関コード：9900

■店番：019 ■店名（カナ）：〇一九（ゼ ロイチキウ店）

■預金種目：当座 口座番号：0650871

■カナ氏名：セタガ ヤクガ クド ウホイククラブ フボ カイレンラクカイ